

会 議 録

会 議 の 名 称	平成２６年度 新座市子どもの放課後居場所づくり事業 運営委員会（第２回）
開 催 日 時	平成２６年１１月１９日（水） 午前１０時から午前１１時５０分まで
開 催 場 所	本庁舎２階 全員協議会室
出 席 者	金子 廣志 宮川 みさ子 菅原 久美子 高橋 靖子 須田 邦彦 荒井 マサ子 石原 志穂 淡路 庸子 中島 栄 喜友名 利恵子 土屋 賢治 友成 茂 磯貝 幸子 小山 忠彦 伊藤 進 三上 文子 大熊 正 計１７名
事 務 局 職 員	生涯学習スポーツ課 谷口副課長、富樫主査、藤田主事、天倉主事
会 議 内 容	１ 開会 ２ 挨拶 ３ 議事 （１）新座市子どもの放課後居場所づくり事業運営状況について （２）平成２７年度新規開設校について （３）その他 ４ 閉会
会 議 資 料	・次第資料 ・委員名簿
そ の 他 の 事 項	特になし

審 議 の 内 容 (審議経過、結論等)

1 開会 (藤田主事)

2 挨拶 (金子教育長)

報告 (藤田主事)

新座市子どもの放課後居場所づくり事業運営委員会が、「平成26年度埼玉・教育ふれあい賞」を受賞した。

3 議事 (説明：富樫主査)

(1) 新座市子どもの放課後居場所づくり事業運営状況について

(資料1・資料2に基づき説明。)

- ・低学年の登録率が高く、1・2年生は7割を占める。また、四小ココフレンドのみ登録率が低くなっているが、全体の登録率は概ね5割前後となっている。
- ・東野ココフレンドの1日の参加者数の平均は60人ほどである。野寺ココフレンドも、開室当初は同程度の参加があった。
- ・懇談会の日には、参加者が増える傾向がある。お盆以降の1日の参加者数は20人から40人程度である。

(P6 平成26年度実施校の活動報告)

<東野ココフレンド：磯貝委員>

- ・参加者数は、落ち着いてきている。
- ・1～3年生が多く、4～6年生は、塾や習い事に行っているようである。
- ・ほぼ毎日参加している児童もあり、懇談会の時は60～70人の参加があるが、90人を超えることもある。
- ・中には気がかりな行動をする児童がいる。そのような児童とスタッフがうまく関われるよう、校長先生や教頭先生、担任の先生と連携し、話し合いの場を設けていただいている。
- ・現在スタッフは12人いるが、1日につき4～5人を確保するのが精一杯である。

<東北ココフレンド：土屋委員>

- ・10月20日から冬時間（午後4時30分まで）となってから、高学年の参加者が減った。
- ・ほぼ毎日参加する児童が6～7人いる。現在の参加者数は30人前後である。
- ・校庭の改修工事をしているため、主に体育館で活動している。
- ・異学年間の交流ができ、とても楽しそうである。
- ・特別な配慮が必要な児童がいる。スタッフがマンツーマンで付き添ったり、校長先生と連絡を取り合って対応したりしている。
- ・遊びがマンネリ化している。9、10月に県主催の研修会があり、そこで紹介された遊びを活用している。

<野寺ココフレンド：友成委員>

- ・6月に開室し、多い時は90人以上の参加がある。スタッフも初めてのことで、はじめのうちは混乱した。
- ・スタッフルームの他に図工室、生活科室を使用できることになっており、

とても恵まれていると思う。

- ・はじめのうちは、下校時の指導が大変だった。帰宅コース別に並ばせて下校させるが、特に1年生は自分がどこに並べばよいのかを把握しておらず、苦労した。

- ・冬時間になって参加者数が減ってきた。学童との合同イベントがあるときは、60人ほどの参加がある。

- ・お迎えに来る保護者が減った。

＜四小ココフレンド：淡路委員＞

- ・第四小学校には、にこにこステイという保育ボランティアがあるため、登録者数が少ないのではないかと。スタッフルームの場所の改善などをして、ココフレンドがもっと定着していけば良い。

＜新堀ココフレンド：中島委員＞

- ・利用率は高いと思う。

- ・働いている保護者もいるので、冬時間となり下校時間が早いことについては気がかりである。

委員長 迎えに来る保護者は少なく、これ以上の延長は難しい。そうすると、高学年の参加が少なくなるのは当然のことである。これまでに、下校時の事故等はあったか。

委員 東野ココフレンドについてはない。ココフレンドだよりも、お迎えが原則であることを載せているが、お迎えに来る保護者は少ない。

委員 不審者情報はどうしているか。

事務局 警察から指導課に連絡が入り、指導課から生涯学習スポーツ課に連絡が入る。その後各ココフレンドにFAXで知らせ、同時にツイッターを更新する。四小ココフレンドについては、お迎えが多い。先日は、参加者32名中29名がお迎えだった。お迎えに行かなくてはならないという意識が、登録率の低さにつながっているのではないかと考えている。

委員長 放課後児童保育室（以下学童という。）からココフレンドに移った児童はいるか。

事務局 移った児童の数は把握していないが、アンケートで、活動時間が長くなればココフレンドに移っても良いという意見はあった。

委員長 学童とココフレンドのすみ分けが必要である。保護者がフルタイムの労働をしていれば、ココフレンドでは対応できない。すみ分けをする方向にしなければ、学童の入室者はどんどん増える一方である。入室基準の見直しも必要になってくると思う。

委員 学童を退室して、ココフレンドに登録するという児童はあまりいない。夏休みだけ入室する児童もいる。学童の大規模化解消にはつながっていないと思う。

委員長 このままでは、学童の大規模化はどんどん進み、増築なども必要になってくる。学童ではなく、ココフレンドで対応できる家庭も中にはあるのではないかと。

(2) 子どもの放課後居場所づくり事業アンケート実施及び結果について （資料3に基づき説明。）

- ・毎年10月に実施している。

- ・平成24・25年度は、ココフレンド登録児童の保護者を対象にアンケート調査を実施していたが、今年度はココフレンドに登録していない児童の保

護者も含めた全ての保護者を対象に実施した。

しかしながら、ココフレンド実施校全てで調査を行うことは困難であるため、開設年度ごとに1校、計3校（石神小学校・東北小学校・野寺小学校）での調査を実施した。

- ・9ページまでは3校全体の結果であり、それ以降20ページまでは学校ごとの結果である。

- ・1，2年生の保護者からは感想が書かれているものもあり、スタッフ等への感謝など好意的な意見が多い。おやつを出してほしい、長期休業中の午後にも開室してほしいという意見もあった。

委員(5) ココフレンドに参加するようになってどう変わったか、という設問について、「①友だちと遊ぶ機会が増えた」、「②異学年の子どもたちと一緒に遊ぶ機会ができた」という回答が多く、ココフレンドの効果が感じられて嬉しい。

委員陣屋小学校にはココフレンドがないので、とても興味がある。私の子どもは同学年の子と遊ぶことが多い。陣屋小は、パートをしている保護者が多く、ココフレンドで間に合う人もいると思う。現在、PTA活動は午前中に行っているが、ココフレンドがあれば午後に活動でき、参加しやすくなると思う。

委員保護者から、長期休業中の午後も開室してほしいという意見を聞いている。しかし、スタッフからすると難しいと考えているようであるが、そのような意見はあったか。

事務局そのような意見を多くいただいている。お弁当を持たせても良いので、開室してほしいという意見もある。

委員スタッフは、長期休業中には親子で触れ合うことも大切であるということも言っていた。

委員(5) ココフレンドに参加するようになってどう変わったか、という設問について、「②異学年の子どもたちと一緒に遊ぶ機会ができた」というのは、すごい成果だと思う。私は、下校時のお迎えについてが一番の気掛かりである。登録していない理由を問う設問の回答に、「お迎えができないから」を入れると良いと思う。これまで何もトラブルがなかったから良いが。長期休業中の午後にも開室してほしいという保護者の気持ちも分かる。

委員異学年間の交流ができることが一番良い。事業がますます発展するとよい。

委員町内会で、下校時にパトロールしている。ココフレンドが今以上に発展すれば、パトロールの時間を変更することも考えている。

委員長お迎えの件については、アンケートに盛り込みたい。全体的に見ると、ココフレンドは有効に機能していると思うが、常時保育が必要な家庭にとっては足りていない。もっと多くの学校に開設できればと思う。

(3) 平成27年度新規開設校について

教育委員会内部では、早い時期での全校での開設を目標にしており、毎年2校ずつ開設してきた。平成27年度は、市議会定例会の一般質問や、放課後子ども総合プランの方針により、3校の開設を考えていたが、財政面等その他の理由から、再度調整をすることになった。スタッフルームが確保できることなど、ココフレンド開設の絶対条件から、資料4のとおり3校を選ん

でいたが、開設校数も含め、もう一度検討する。

委員長 早期に全校での開設を、という考えなので3校での開設を考えていたが、難しい局面にあり、現時点でははっきり申し上げられないことを御理解いただきたい。どこか開設したほうが良い学校はあるか。

委員 学童の入室率で言うと、栗原小学校は狭あい化が進んでいる。ココフレンドとのダブル登録が可能かと思うが、家庭の需要に応じて、一方のみの登録にする方法も考えられる。夏休みも開室していただけるとありがたい。スタッフの確保は難しいと思うので、謝礼金の単価を上げることも必要かと思う。また、学童は最高1万円の利用者負担がある。ココフレンドも、いくらかの負担を課すことを考えてはどうか。

委員長 学童は入室率が100%を超えているところがいくつかある。これを解消する対策の一つがココフレンドである。スタッフの体制も含め、運営体制そのものの見直しも必要になるかもしれない。最低1校は開設する予定か。

事務局 そうである。

委員 ダブル登録をしている児童数は分かるか。

事務局 8月末のデータでは、東野：11人、石神：30人、東北：22人、新堀：21人、野寺：11人、四小：10人である。

委員長 ココフレンドで対応できるかできないかは、家庭の状況をもっと詳しく見てみないと分からない。

委員 利用者の家庭状況を把握できるようなアンケートを作成してほしい。

委員長 社会福祉協議会では、保護者の勤務状況等は把握しているか。

委員 把握していない。子育て支援課で把握している。

委員長 入室基準はどうか。

委員 就労時間等が基準になるが、その基準をもう少し厳しくしてもよいと思う。

委員長 新座市は子どもが増えており、使用できる教室が少なくなっている。早く整備することが重要である。東北の学童はどうか。来年度は、建物を増やす計画があるようだが。

委員 学童はようやく制度化され注目されている。もう1つ建物を建ててもらえたら、という要望を出しているのは事実である。

委員長 適正規模で運営するのが理想である。

委員 学童と比べココフレンドは体育館などが使用でき、優遇されているという意見があった。

委員 土屋コーディネーターの御好意により、学童の児童も体育館を使えるよう配慮していただけることもある。

委員長 お互いに協力して行けば良い。

(4) その他

(長期休業中の午後の開室について)

長期休業中の午後の開室については、アンケートで多くの方が希望されていることが分かった。このことから、昼食の問題やスタッフの確保、待遇の問題、開室時間の課題はあるが、平成27年度に試験的に東北ココフレンドで実施することを検討している。23ページのとおり、実施要綱の変更も必要である。

委員 東野ココフレンドでも、同じ意見があった。しかし、現状では、1日のスタッフを5名確保するのが限界である。午後もとなれば、コーディネーターも2名では厳しい。現時点で、スタッフが8時30分に出勤するもの厳しいような状況である。午後も開室するとなれば、午前の部・午後の部など分けることや、スタッフの待遇についての検討も必要である。

委員長 現在、スタッフは有償ボランティアという立場だが、1日見守りをお願いするとなれば、ボランティアの立場では難しい。事務局ではどう考えているか。

事務局 事務局でも、1日ずっとというのは難しいと考えている。2交代制でやらざるを得ない。ボランティアという位置づけでは、とてもお願いできない。しかし、臨時職員には65歳という年齢制限もあり、全てのスタッフを臨時職員にすることはできない。ただし、高齢者と子どもたちとの交流は今後も続けていきたいので、65歳以上の方にも引き続きスタッフをお願いしたいと思う。コーディネーター及びスタッフの待遇改善は検討しているが、まだ内部での調整が済んでいない。

委員長 ボランティアを残すのであれば、交代制にしなくてはならない。大学生や高校生のアルバイトも検討できると思う。

委員 学生であれば年齢が近く、子どもたちも喜ぶと思う。十文字学園には教職関係の学部があるので、依頼できるのではないか。

委員 学童の指導員にお願いすれば良いのではないか。

委員 学童の大規模化解消につなげようという気持ちが強く、ココフレンドの本来の目的が薄れてきているように思う。

委員 1日となると、保護者は預ける、子どもは強制的に行かされる、という意識が強くなると思う。本来の目的を意識し、市の事情も考慮しながら午後の試験的な開室をしていければと思う。

委員 午後は何時まで開室するのか。23ページの実施要綱には午後5時までとあるが。

委員長 この資料はあくまでも案なので、「案」という字を書き足していただきたい。まだ決定ではない。

委員 スタッフの方たちに一度検討していただいたほうが良いと思う。

委員 丸一日は無理だと思う。運営体制についてもまだ調整がついていない。コーディネーター全員に集まっていただき、具体的な意見をいただく場を設けたい。

委員長 現段階では、東北ココフレンドをモデルとして午後の開室を試験的に行うことしか決定していない。次回会議で提案できるよう検討していく。(今後のスケジュールについて)

26ページのとおり説明。

4 閉会（藤田主事）